

## 夢はいつかきっと叶う

私は、幼い頃から海外へ行くことを夢見ていた。私にとって、今回は鈴木青少年の翼への二度目の応募で、最後のチャンスだった。区のホームページに自分の申込番号を見つけた時、涙が止まらず、書類が届くまで派遣が決まったという実感が湧かなかった。それでも、派遣団員の誰よりも英語を話すぞっという自信だけはあった。

初めてホストファミリーに会い、車で家まで向かう途中、全員が無言だった。一言も発することのできない自分の勇気のなさを痛感させられた。しかし、日が経つにつれて、自分から進んで話しかけることができるようになった。ホストファミリーは、ラグビー観戦やスケート場など多くの場所に連れて行ってくれた。全員とても優しい方々で、私たちのつたない英語に耳を傾けてくれた。時には、間違えることもあったけど、笑って許してくれた。中でも一番嬉しかったことは、共通の趣味を語り合えたことだ。私の友人には、K-pop好きの子しかおらず、英語圏の趣味を持つ友人がいなかったからだ。

また、私たちは三人で一つの家にお世話になった。始めは、日本語で話してしまい、勉強にならないのではないかという不安もあった。そのため、三人でお互いも英語で話すようにといくつかのルールを決めた。二人のお陰で、ホームシックになることなく、毎日が楽しかった。しかし同時に、共同生活をする事の難しさも学んだ。

さらに感じたことは、何も喋らない子はその時点で向こうの人からの興味を得られないということだ。バスで隣の席になった子は、始め私と顔も合わせてくれなかった。しかし、粘って何度も話しかけたところ、相手からも笑顔で話しかけてくれるようになった。オーストラリア生活4日目あたりから、学校ですれ違おうと手を振ってくれる子が増えて嬉しかった。

今回の派遣を通して私は、思い立ったらすぐに行動することの大切さと間違いを恐れない勇気を学び、今の自分の現実を知った。さらに、恥ずかしがり屋も緩和されたと思う。一つ後悔したことは、ただ漠然と海外へ行きたいと思うのではなく、もう少し具体的な目標を持っていくべきだったということだ。私は、将来の夢を見つけるための一歩に、この報告書には書き切ることのできないほどの貴重な経験を活かしたいと思う。

この度は、団長、随行を始め、オーストラリアでの現地の方々、鈴木青少年の翼に関わる全ての方々に心より感謝申し上げます。

